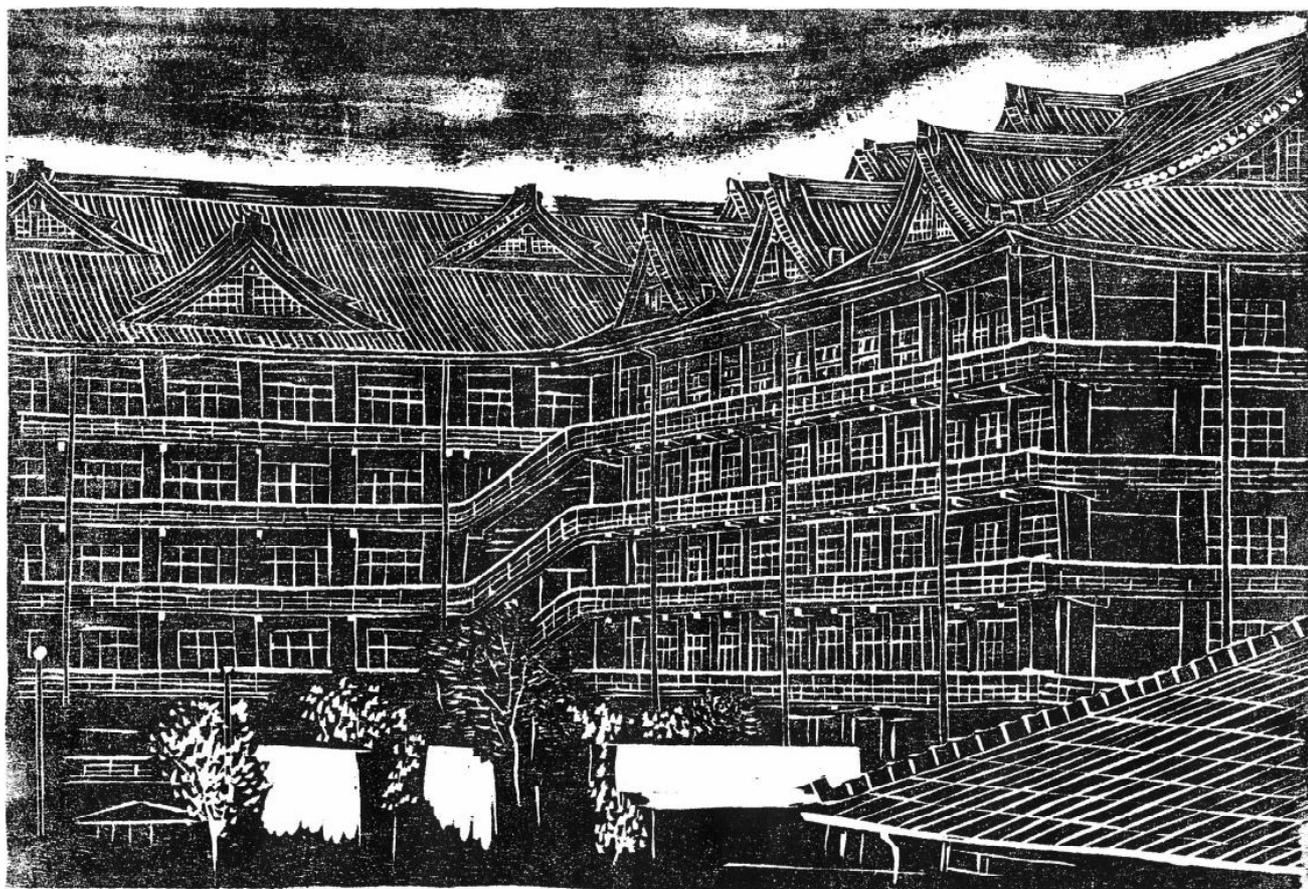


# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



憩の家

## おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
- ・おぢばへの伏せ込みひのきしん



# 笠岡団 おつとめまなび総会 開催



少年会笠岡団では4月1日(火)に本年度の「おつとめまなび総会」を開催しました。

当日は朝からすばらしいお天気となり、受付が始まる9時前から会長さんや、親子での参加者などが続々と集まってきました。そして、参拝場、廊下にといっぱいになった9時半に少年会員による雅楽の澄んだ音色が鳴り始め、おもむろに祭儀式が始められました。

今年もおつとめ着に身を正した少年会員は、やや緊張した面持ちなが



ら大人顔負けの堂々たる祭儀式をとめ、祭文では、毎日元気に勉強やスポーツに頑張っている喜びを親神様と親に感謝をすることを、また、今年の「こどもおぢばがえり」には仲良く助け合って、たくさん友達をさそって参加することを親神様、教祖さまに奏上しました。

つづいて直轄教会による坐り勤め、よろづよ八首がつとめられ、また各ブロックによる、十二下りのてをどりも少年会員らしくはつらつと勤められました。



おつとめ後の式典では、育成会長様からおつとめの大切さや、人間は、互いにたすけ合うようにつくられているなどと分かりやすく、ときには微笑みながら、子ども達にとって身近なお話しをして下さいました。

また、この春、中学校を卒業する少年会員に若木の門出として記念品が贈られました。また、3月30日から当日の朝まで2泊3日の鼓笛合宿があり、その成果をお供え演奏させていただき参拝者から万雷の拍手を頂きました。その後、昼食のおいし

いカレライスをいただき、午後からのアトラクションは、駐車場で各ブロックチーム対抗のドッジボール大会が行われ、子ども達は、当然とても痛くないソフトドッジボールに歓声をあげながら楽しんでいました。今年は、高屋チームが力を合わせて優勝しました。午後3時には閉会し、おやつジュースとお菓子を食べて解散しました。今年も次代をになう子供たちが一生懸命におつとめをつとめる姿を見せていただき、また就学前の幼児が自分の顔よ



り大きなチャンポンをつとめている様子などに皆さん方もおもしろ顔がゆるんだことでしょう。

続いてこそ道といわれるように今年も「おつとめまなび総会」の意義を感じさせて頂きました。

参加者は、少年会員、育成会員合わせて400名余りの大勢でした。各教会、各隊、また婦人会をはじめ、関係各会、各部の皆さま方のお力添え誠にありがとうございました。

(少年会団長 中島 誠 治)





## 笠岡団 おつとめまなび総会 開催

笠岡大教会の春の訪れを告げる風物詩、「笠岡団笠岡むつみ鼓笛隊春季講習会」が大教会を会場に、三月三十日から四月一日にかけて二泊三日で開催されました。

これは夏のこともおちびがえりに向けて、毎年笠岡に繋がる鼓笛隊が一同に会して合宿練習をするものです。参加者は、本隊(通称)、福山隊、高屋隊、島根隊からの、鼓笛隊員69名、鼓笛スタッフ31名、総勢100名の参加でした。

内容といたしましては、鼓笛練習として、昼間は各楽器のパート練習、合同で行う合奏練習。夜の行事として、初日の夜はお楽しみ行事・全員でのゲーム。二日目の夜は最終日に控えた『おつとめまなび総会』のためのおつとめ練習と、充実した講習会をつとめさせていただきました。

鼓笛合宿の楽しみは、練習・お楽しみ行事もさることながら、大勢で頂く食事。狭いながらもわいわいがやがやと入るお風呂。おやつ。そして何よりの楽しみは、みんなと一緒に寝るといふ、普段家庭では味わうことのできない生活の場です。そして最も大事な朝夕のおつとめ、更にひのきしんにもそれぞれに真剣につとめ、日課はじめ・おやすみ行事での教話にも熱心に耳

を傾けていました。

最終日、おつとめまなび総会・総会行事終了後の鼓笛お供え演奏では、練習の成果を親神様・教祖にご覧いただき、また大勢の少年会員・育成会委員の前で披露させていただきました、絶大なる拍手を皆様から戴き、感激をいたしました。

今年も、大教会長様、奥様の親心を戴き、更に鼓笛スタッフはもとより、毎食ひのきしんをして下さった婦人会の方々、隊員・スタッフの支えとして詰めて下さった少年会委員の方々、またごまとした生活を支えて下さった大教会の方々と、表から、裏からと大勢の方々に支えて頂き、つとめさせて頂けた講習会でした。誠にありがとうございました。

これからは各隊に分かれ、練習に練習を重ね、こどもおちびがえりを目指してがんばります。これからも温かい目で、お見守り頂きますと共に、お力添えをお願いいたします。

最後に、どの隊も充実した鼓笛隊です。音楽を学ぶということ以上に、信仰を学ぶ場であり、人間性を学ぶ場でもあります。学校の友達とはまた違う友達もたくさんできます。どうぞ子供さんに声を掛け、鼓笛隊活動に参加させてあげていただきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

(少年会副団長 掛谷 宣和)

# 談話室



## 鼓笛バンド研修会を終えて

福山隊 枝廣 正寛

研修会の参加は今回で3回目でした。情けないんですが、研修会に参加するときは、自ら進んでではなく、隊の人に行くように言われて仕方なく行っていました。前回、前々回は、ドラムのパート指導、合奏指導で参加し、多くの事を学び、いろんな方と話すことができました。今回は、マーチングコースに参加で、いつもより余計に不安でしたが、福山隊に一人経験者がいて、とても楽しかったと聞いたので、少し期待もありました。でも、マイナスイメージが多かったので、研修会に行くからには、しっかり勉強して、練習して鼓笛隊員の子どもたちに多くの事を持ち帰ってやろうという気持ちに切り替え、前向きに本部へと向かいました。

初日は、期待通りの猛練習で、ひたすら足踏みの練習でした。あまり他の方とも話さず自分のことで精一杯でした。詰所では筋肉痛でした。

2日目は、一日中練習でした。鼓笛隊員に教え

るからにはまず自分たちがマスターしなければならぬということ、マーチングの基本動作をひたすら練習しました。また、ウォーミングアップやゲームの時間が多くあったので、いろんな人と鼓笛についての考え方や、どんな練習をしているかなどを話せました。これも、研修会のメリットだと思いました。

3、4日目は、複雑な動きのドリルというものをしました。みんな一人ひとりの動きは違うんですが、全体でみるととてもきれいな動きになるというものです。初めてドリルをしたので良い経験になりました。

また、先生方に質問する時間が多くあったのも良かったんですが、もっと質問を用意しとけば、と思いました。

最後に、4日間通して感じたことは、やっぱり仕方なく来ている人と、たくさん吸収して帰ろうとする人の姿勢は全然違うと思いました。私自身も、子ども達にどう教えるかを考えながら参加できたので良かったです。

今回は、マーチングコースということでも新鮮でした。練習、練習でヘトヘトになりましたが、とても中身の濃い4日間になりました。これからは、研修会で学んだことを子どもたちにたくさん反映して、金賞目指して、楽しい鼓笛隊活動をしたいです。

## 後継者講習会に参加して

海松ヶ岡分教会 早川 健太

僕と天理教のとの出会いは森本慶二さんから「一度教会に来てみないか？」との誘いからでした。慶一さんとは、仕事を通じて知り合いました。いつも色んなことを教えてくれる存在だったので、素直に参加しました。

初めて教会に行った感想は、みんな明るく元気で温かい。その頃、ちょうど仕事、人生に行き詰まり、何かを求めていた気がします。ここに関わったら、たぶん人生よくなるやろな〜と思い、天理教を信仰する決心をしました。

昨年10月には基礎講座を受講し、今回の後継者講習会で、おぢばは2回目になります。参加した人達が「すぐく良かったよ」と言うので、楽しみにしていました。まずビックリしたのが若い人達がこんなに多く信仰していることです。「ねりあい」といった少人数で話し合う時間では、自分より若い人達が真剣に話している姿が印象的でした。

一緒のグループで、嫌々参加した23才の女の子も、3日でもかなり変わってました。

今回受講して、信仰の素晴らしさ、生かされていることへの感謝と喜び、自分がすべきことに気

付かされました。  
 これから、お道の信仰を自分の哲学として、心から日々歓喜し、自分のしぐさ、振る舞いをもって、信仰の素晴らしさを伝え、また、たくさんの人達と分かち合いたいと思います。



▼『天理時報』四月二十日号、「時報歌壇」より転載  
 ▼選二十首中、笠岡に繋がる教友の方一名、一首が見事選ばれ掲載されていましてので転載させていただきます。おめでとうございます。

東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子  
 ふっくらと辛夷さくら咲く宵キャンドルに  
 白き灯りのともるかのよう

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載  
 ▼今回の課題は「正」、選七十五句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましてので転載させていただきます。おめでとうございます。

準秀詠 東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子  
 眞実まことの教祖おんの思しいを正ただに説まをく

▼表紙の版画 東城分教会長 横山逸郎氏

## ◆第4回大教会長杯親睦大ソフトボール大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第4回目を迎えます。今年も遠方の方が参加出来るようにとの思いで6月22日、月次祭の次の日の日曜日を選びました。昨年は10チームがエントリーし180名ほどの人が集まり賑やかな大会を持つことが出来ました。今年も、多くの方々が参加出来るよう、1チームに会長さん、50歳以上の方、女性の方、少年会員も必ず入るようになっていきます。尚参加お供えは中学生以上一人500円となっています。当日はおいしいうどんが用意されています。体力に自信のある方も無い方も奮ってご参加下さい。

### 大会スケジュール

大教会集合 (それぞれで参拝をしてグラウンドに向かう)  
 8:30までに茂平グラウンドに集合  
 開会式・遙拝・大教会長様あいさつ  
 競技説明・選手宣誓  
 9:15 プレイボール  
 11:00より 昼食 (13:00まで)  
 15:30 閉会式 成績発表・表彰式・挨拶・遙拝

詳細は

直轄Iブロック - 浅野明教さん(大教会神事所)  
 福山ブロック - 福満分教会長さん  
 高屋ブロック - 秀平元一さん(高屋)  
 久松ブロック - 中村剛史さん(久松)  
 直轄IIブロック - 東城分教会長さん  
 上下ブロック - 上下分教会長さん  
 府中市ブロック - 甲井分教会長さん

までお尋ね下さい。

(尚、島根ブロックは今年行事が重なったため、不参加となります)

## 笠岡教團の人達へ

上原繁雄

投げられた一塊の石は忽ち静かな水の面に波紋を起すのであるが其波紋は漸次擴大して力の弱ると共にやがては消えて仕舞ふのである、若しも其石にして絶えざる運動の力があれば其波紋は永久に消えないで而かも其力が大きければ大きい丈け益波紋は大きくなるであらう。

明治十九年舊長様が笠岡に布教を開始せられたのは此大きな力のある石でなくて何であつたらう、而かも其石は神様に依つて投げられた大きな石であつた。波紋は如何に及んだかそして此波紋は將來益々擴大して永久に消えないのである。此波紋こそ即ち笠岡教團であつて其中心は常に神意を根底とする大きな力に依つて動き且つ進みつゝあるのである。我等笠岡教團にある者は此波紋の中に生息し、そして又我等は常に中心の力に順應しつゝ大きき小さき波紋を起して居るのである。然し其波紋の中には益力の増大して大きくなるのもあれば消えてなくなる如き弱き波紋もあるであらう、同じく起すならば大きき力ある波紋を起して大なる影響を與へ一人でも多く波紋の中に捲き込むこそ快心の事ではなければならぬ。我等が常に中心の動きを注視して其旬を察知し順應して進む處に我等の捲き起す波紋は其力が益増大するのである。我等は昭和五年十月の今日に當りて笠岡教團の中心に動く神意を究める事は強ち無駄の事ではないと信じる否、それこそ我等の待望して居る處である。

御教祖四十年祭はよなをりの節と言はれた、そして五十年祭はりをふくの旬と言はれて居る。本教に於ける御教祖の年祭は節である。

世間でも言つて居る十年は一節、十年一昔と、本教に於ける御教祖十年祭は如何であつたか、二十年祭は如何であつたか、三十年祭は如何であつたか、然し四十年祭は特に如何であつたか、大正十一年御教祖四十年祭準備御提唱御発表あるや教内の活動は文字通り目覺ましきものであつた。そして四十年祭を勤めさして頂いた時には教勢はすつかり以前とは變つて仕舞つて居た、我笠岡又舊來の面目を一新さして頂いたのであるが是即ちよなおりの節であつたのである、そして五十年祭はりをふくの旬であるが、五十年祭は只昭和十一年が五十年祭ではないので四十年祭を勤め終へさして頂いた笠日より五十年祭奉仕の期に入つて居ると云ふ事は道の中に居る人々ならば誰でも悟らして頂ける事柄である、即ち嚴密に云へば大正十五年二月よりりをふくの旬に入つて居るのである。故あるかな昭和二年には笠岡に取りてはほんの少しの理の芽がふいて來たのである、これが我等が教是の根底として朝夕念願してゐる神意即ちおさしづの顯現である、此の理の芽をして益成長し太く大きく強くなさしめなければならぬのは申す迄もない事であつて、りをふくの旬に當つては益其感を深くするのである。而して五十年祭は準備に入る第一年に當つて顯現した神意は熟慮すべき何物かを啓示して居られるものと思ふのである。世間も云つて居る十年一昔と御道は猶更十年一節と。笠岡教團の諸氏は是を如何に觀じるか、

『神が話し夫を人間が果すのやで』と神言にある通り神様から話される、夫を我等は果さして頂く、其處に道の御用が勤まつて行くのである。『大きい川越そと思へば大きい心が要る小さい川ならばいと越せる』昔より大なる事業には大なる努力が必要であつた。神意の達成には大なる努力が必要である事は云ふまでもない事であるが特に我等笠岡教團の者にとりての神意の實現は根強い意力と神への至的信頼とに俟たなければならぬ。笠岡教團として眞の笠岡教團たらしむるには其第一段階たる教是の實現を期せなければならぬ。懺悔とつくしとに依つて通り抜けて教是の實現の彼岸に達した時に笠岡教團の我等は『神が話し夫を人間が果すのやで』との神言に忠實なりと云へるのである。昭和二年に神意を顯現せしめ給ふた神は其後如何なる御用を仰せ付けになつたか？ 教是實現の第一歩の踏出しではなかつたか？ 時旬に當つての神意は刻々に教是の實現に近づきつゝある事を明示せられて居るのではなからうか、『両眼開いてあつても心の眼が開いてなければ盲目同様』時代の流れを見究める處、即ち先覺者の悟りが開かれるのである、笠岡教團の我等も神の明示を悟りてこそ時代に棹す者と云ひ得べきだと思ふ。

眼を轉じて我日本の現下を見よ、東よりは亞米利加の黄金の津波押し寄せて島帝國を黄金萬能の波浪に洗はんとし、西赤露より赤き思想の風吹きて全日本を靡かせんとし刻々と危険に類する状態に置かれて居るのである。否黄金の波に溺れ赤き思想の旋風に巻き込まれる者其數を増

して行くのである、況んや世は不景氣である、黄金の前には良心も犠牲にして恥ぢない、自我の前には人も國家も考へないのである。此種の傾向が強烈とならんか國家の前途、國民の品性に慨嘆に堪えないと云つても然るべきである。再轉して本教の現下を見よ、神理の槍と信仰の楯とを持ちて世界の思想と戦ひ是を導いて行かなければならない道の者が世界思想の前に其槍先も鈍り其楯さへも先方に奪はれ思ふ事言ふ事爲す事却つて社會の人よりおくれ中には天理教の人なるが故に信用せないといふに至りては神の用木たる價值何處にあると問ひたいのである。又左程になつても世界の思想に溺れ行く有様は否まんとすれど否めないものである。斯の如き状態の下にある本教に於て我笠岡教團は如何に歩みを爲すべきか、是現下當面の問題であると共に將來に於ける指針であると爲すのである。

我日本の現下の状態をして是を人爲でなく天爲と觀すれば如何、天は人を困しむるものか否天の人を苦しめるは天の苦しめるにあらずして人理ありて苦むのである。天は慈悲である、今天が苦しめると假定するに如何なれば天が人を苦しめるか、金言に曰く艱難汝を玉にす、と國民全体が各自自己反省して慎みて勇んで働き悪思想に打ち勝つ恒の心を保ちて進ましめて日本の状態をよりよき状態にせんとする天意に外ならずと信するのである。

本教の現下の行詰りも之を神意と悟れば同じく自己反省懺悔つくしの強調に外ならないのである。各自の心奥深く考慮を施す時内心神に對して忸怩たらざる者幾人あるか、茲に本教とし

て自己反省懺悔つくしの強調を要求せらるゝの時代と爲すのである。時當に御教祖五十年祭の發表ありて益此念を深くし實行に移す處御奉公の實の擧ぐる所以と思惟するのである、顧みて國民として信仰者として我笠岡教團の我等は猶も茲に教是の實現の使命を有する者なることを自覺する時益神意の明示に悟入せなければならぬのである。

五十年祭はりをふくの旬として御發表あるや本教としては漸く其活動に入りて其旬に應ずるのである。教内の狀況は又々一變する事は論を俟たない處であらう。此潮流に乗つて進む上に蒸氣機關なる必死の努力を捧げむか船の進行彌が上にも倍するであらう、此潮流に乗ると云ひ蒸氣機關の努力と云ひ精神一つの理に歸するのである、一つの心一つの理一つの道、なんでもどうでもといふ心に如何なる守護も垂れ給ふのである。我等が各自の心を懺悔の鋤で掘り下ぐる處一尺下げれば理は一尺上るであらう、盡しの鋤で二尺耕せば理は三尺四尺となるであらう、只神に全信的頼を捧げて自己反省に懺悔に盡しに心付と行ひに信順の道を通るこそ我等の進むべき道であると信するのである、笠岡教團の我等の向つて行く道は開けたり、いざ諸共に一手一つ其歩みを早めん哉。

## 笠岡大教会アニメキャラクターの名前募集

昨年からこどもおぢばがえり時等、詰所での看板などにテレビや映画等のキャラクターを使用することを禁止する通達がありました。そこで笠岡の教会では、笠岡独自のキャラクターを上原元子さんに5匹の動物で考案して頂きました。これから詰所などを賑わすであろうキャラクターにはまだ名前がありません。それぞれのキャラクターのイメージにあった名前を募集しています。採用された方には、図書カードを進呈したいと思います。奮って応募して下さい。締め切りはこどもおぢばがえりの準備のため6月20日までをお願いします。はがきでお送り下さい。

714-0066

笠岡市用之江377 笠岡大教会

こどもおぢばがえり実行部(上原志郎)宛



### ウサギ娘

性別：メス

性格：おとなしくておっとりしている。性格は5人衆の中で一番大人。しっかり者。怒ると怖い。

特徴：「～です」という丁寧な言葉使いをする。



### ネコ忍者

性別：オス

性格：無口で何を考えているのか分からないが、たまにすごくボケていることをする。寝ることが趣味。

特徴：「オレは～だ」という言葉使いをする。大きな手裏剣を持っている。



### ヒヨコ親分

性別：オス

性格：いつも堂々としていていざという時頼りになる。おちゃめでオヤジギャクが好き。

特徴：「わしは～ピヨ」という言葉使い



をする。語尾に「ピヨ」と言いたくないのに言ってしまうのが悩み。大きなキセルを持っているが実は笛で、ふくと変な音がする。5人衆のリーダー的存在。

### イタチ侍

性別：オス

性格：義理人情にあつく、人助けが好き。釣りが趣味、のんびり屋

特徴：岡山弁をしゃべる。いつも刀のかわりに木刀を持ち歩いている。



### ネズミ風来坊

性別：オス

性格：好奇心旺盛でめずらしいものが大好き。気まぐれでおちつきがなく、いつもチョロチョロ動いている。ウワサが好きで町の色々な情報を沢山持っている。

特徴：「～スッ」という言葉使いをする。



## 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の一列子供が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召によります御守護を頂戴し 今は正に春爛漫の時を迎え 草木を始め生きとし生けるもの全てが芽生えの喜びに包まれています事は 誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに我欲に囚われ 身近な又大切な喜びを失っている人が多くいます事は誠に残念でなりません 道にお引き寄せ頂き かしものかりものの理を心に修めております私共は 日々喜び感謝の心一杯に朝に夕にと御礼申し上げます 御恩報じを思い念じ一人でも多くの人に喜びを伝えるべく たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの名称にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同喜び心たすけ心も一つに睦び合って 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には春の陽気に誘われ 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝み 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先日十八日には教祖二百十回目の御誕生祭が行われましたので 夫々誘い合わせておぢばに帰らせて頂き教祖にお喜び申し上げさせて頂きましたが 大事なのはお喜び申し上げる事はさる事ながら 世界だすけにお働き下さる教祖に私共一人一人がよふぼくとの自覚を高め 積極的に日常的にたすけ一条の御用に邁進する姿を御覧頂く事こそが真にお喜び下さる事と思案し 更なるたすけ一条の実働をお誓い申し上げます 加えて五十年のひながたを通して急ぎ込まれたおつとめの完成を目指し 夫々の教会でのおつとめ奉仕者増員の思いを更に強めて にをいがけおたすけ 又よふぼく信者の丹精にと確実に成人の歩みを進ませて頂く覚悟でございます そして丹精の一端としての二十九日の全教一斉ひのきしんデーには全よふぼく信者参加を目指し 声掛けの徹底を計って行く所存でございます 何卒親神様には我さえ良くばの世相の中にあつて 我欲を捨て親孝心一筋に成人の歩を進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に自由の御守護を賜ると共に「人救けて我が身救かる」の喜びも味わわせて頂き 互い立て合い助け合う陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます



# ・原・稿・募・集・

**内 容**

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

**字 数**

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

**寄 稿 先**

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X：0865-66-1314

メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



## 大教会だより

### ◎任命願

輝華 分教会

＊前任 箕成一夫

＊新任 箕成節子



☆奉告祭 立教171年6月1日

立教171年4月26日承認

## 計 報

### 下村信義氏

稲讃分教会長

四月六日出直されました。

享年 八十七才



昨年八月より始まった後継者講習会も四月(三十次)を以て全日程終了を迎えた。

十年前は受講者として参加させて頂いたが、今回は世話取りをさせて頂く側にまわり色々と学ばせて頂いた。

今回の反響で先ず耳にすることは、口々に「良かった」の一言である。その良かったをもう少し掘り起こすと、一口でお道を求める後継者の集まりと言っても、その多くは環境を異とする多種多方面から集まった道友……。その異環同求の者がおぢばで一堂に会し、お互いが信仰について意見を交わし刺激を受ける。更には、をやの御教えを学ぶ。改めて自分の信仰を見つめ直し、成すべき道を見つけ家路に向かう。謂わば信仰の再発見、再確認である。

う……。少なからず車中、程良い緊張から来る解放感と満足感で熟睡する面々を眺め斯様に思いを巡らす……。

今回、笠岡で計二百六名の受講者をご守護頂いた。

取消、新規受講者の手続きに追われ、連日事務処理の如く行っている、或る会長さんから「申し訳ない。今回うちの受講者に取消が出た。受ける理がなかった、何としてでも受ける理作りをさせてやりたい」との相談があった。取消の多くは、仕事の都合でが殆どの旨。世情を考えると、最低二泊三日の合宿は都合が付かないのはごもつとも理由である。加えて平日開催時の時もある。が、しかし、無事受講が叶い、笑顔満面に戻ってきた受講者も居る。受講者にとって、後継者講習会云々と言うより、全ての飾りを削り取って得たものとは、かけがえのない親神と己の対話ではなかったろうか……。今後の丹精により育つ用木の活躍を楽しみにしたい。

(ちよん)